

[015]教育経営学研究紀要目次等

<https://hdl.handle.net/2324/25364>

出版情報：教育経営学研究紀要. 15, 2012-09. 九州大学大学院人間環境学府(教育学部門)教育経営学研究室/教育法制論研究室

バージョン：

権利関係：

あとがき

ここに教育経営研究室ならびに教育法制研究室による合作の研究室紀要第15号が完成いたしましたので、謹んで皆様にお届け致します。本号も昨年に引き続き、日本教育行政学会（本年度会場は早稲田大学）の大会開催に間に合わせることを命題として、編集委員（金子研太・畑中大路、特集は梶原健二）各氏の多大なる尽力と、両教員による査読、再査読における繰り返しの修正要求にも執筆者が真摯に対応し、なんとかスケジュール通りに無事刊行することができました。

研究室の近況をすこしお伝えしておきます。昨年度まで九州教育学会の事務局が八尾坂教授のもとにあり、また昨年度は日本教育行政学会の大会を開催（八尾坂修委員長）するなど、限られたスタッフでマネジメントしながら、事務局を切り盛りしておりましたが、本年度はこれらの役割が解かれ、少し落ち着いた感があります。

そこで本年度は「研究する」研究室というお恥ずかしながら至極当然のトートロジーをテーマに掲げ、個人研究を深めるために、これまで不定期だった参加者自由の卒論・修論・博論検討会を定期的で開催し、また共同研究の一つとして春日市教育委員会の調査活動を実施いたしました。周知のとおり、同市教育委員会は第1回全国コミュニティ・スクール研究大会を開催するなど全国的に注目される自治体の一つです。このたびの早稲田大会でも特別シンポジウム(テーマは教育長のリーダーシップ)での登壇が予定されています。

詳しくは特集をご覧くださいなのですが、春日市教委が「活性化」した数ある秘密のうちの一つは外部資源の積極的活用など進取の気風をもつ革新的かつ支持的な組織文化です。研究室との連携協定(覚書)も早い時期に交わし、学生の卒論調査などをいつも積極的に受け入れてくれました。今回の共同研究でも公務ご多用な中、快くお引き受け下さり、多くの情報提供とともに手厚いご指導もいただきました。ここに記してお礼申し上げます。

なお、少し落ちついたと申しましても九州教育経営学会や学校管理職短期マネジメント研修の事務局は相変わらずですし、今秋はアメリカ教育学会の大会（八尾坂委員長）等も控えております。それぞれの切り盛りはコアとなる博士後期課程の院生を中心に修士課程の院生や研究生、学術研究員、学部学生らが協力してくれて何とか凌いでくれています。

新たなメンバーも加わりました。今春は比較・国際教育第三講座教授の退職にともない、4人が途中で研究室に仲間入りしました。留学生もまた増えています。9月現在、中国人留学生が5人、韓国人留学生が4人となりました。今月は研究室有志が韓国公州大学にて学術交流として研究発表を行います。研究室の国際化はこれからの課題かもしれません。目下、研究室HPの中国語バージョンに引き続き、韓国語バージョンも構想中です。今後も福岡というロケーションを自覚し、九州大学らしい研究を発信していきたいと思えます。

最後になりましたが、本研究室紀要の論考をご高覧いただき、ぜひ忌憚のないご意見を賜りますれば誠に幸甚に存じます。まだまだ未熟な研究の若き学徒にぜひともご教示をお願いします。ご自愛の上、爽やかな秋をお迎えくださいますよう心より祈念いたします。

2012年重陽の節句に
元兼正浩